

「ハートリンク」 ～子どもが夢を持てる街・八王子～

“Heart-Link”

～Hachioji, a city where children can dream～

グループ名：かりふらわー

学生氏名：澤田 優美, 北村 野乃子, 廣部 文美, 磯部 美咲, 桑江 香織

指導教員 青野 健作

創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

キーワード：多世代交流, 地域活性化, 自発心

1. 目的と現状分析

本提案は、様々な文化体験の有無による子どもの将来の格差を防ぎ、子どもの時から自発心を育むことを目的とする。文部科学省の「令和 2 年度青少年の体験活動に関する調査研究報告」では、小学校の頃の自然体験、社会体験、文化的体験や読書、手伝いなどを多く行った子どもは、高校の時に自尊感情や外向性（自分のことを活発だと思ふ）、精神的な回復力（新しいことに興味を持つ、自分の感情を調整する、将来に対して前向き）という項目の得点が高い傾向にあることが分かった。この結果から、文化体験等は子どもの自発心を育むことに繋がる。

文化庁による令和 3 年度「文化に関する世論調査」によると、子どもが行った文化体験について、「特に行ったことはない」と答えた割合は、48.2%（2019 年）、61.9%（2020 年）、77.8%（2021 年）であった。コロナ禍における影響があったとはいえ、コロナ前の 2019 年から約半数の子どもが文化体験を行っておらず、コロナ禍による制限が緩和された今、文化体験を行える場所が改めて必要となっている。

八王子市には児童館が 10 館あり、0 歳～18 歳までの子どもであれば誰でも無料で利用することが可能となっている（なお、2023 年 11 月より、「子

ども・若者育成支援センター」に名称が変更し、対象となる利用者也市内在住・在学・在勤の 18 歳から 29 歳までの支援が必要な若者が追加される）。しかし、児童館や学童保育所の実際の利用度は 25.7%となっており、必ずしも十分に機能しているとは言い難い現状があると言することができる。

このような問題意識に基づき、子どもの自発心を育むためのまちづくりが求められると考える。

2. 提案内容

八王子市で、高齢者と子どもが共に文化体験を行なえるようなイベントを「ハートリンク」と名づけ、以下の通り、イベント開催の提案をする。

(1) イベント内容

「子どもと関わりたい」という高齢者を対象に、ボランティアとして様々な文化体験の指導員（ハートリンカー）を募集する。学生や児童館職員がサポートをしながら、子どもたちが文化体験をしながら多世代交流ができる機会をつくる（例えば、そろばん、ピアノ、昔の遊び、工作、将棋、書道、ボランティア活動など）。

(2) 開催場所

・児童館（子ども・若者育成支援センター）

(3) 広報活動・宣伝方法

- ・ SNS (Instagram, YouTube, X, Facebook など) を活用して、独自のホームページを開設してユーザーと距離感の近い宣伝を行う。
- ・ 八王子市内のすべての学校や教育施設にポスターを貼ったり、市の広報誌等を通じて、申込用紙等を配布する。
- ・ 八王子市のインフルエンサーや学生ボランティアを通じて、広報活動を行う。

3. 提案の効果

本提案を通じて、以下の効果が期待される。

- ① 内向的な子どもや文化体験の経験が少ない子どもが「ハートリンク」に参加することで、物事への好奇心を育むことができる。これにより、将来への成長意欲が生まれる。よって、児童館への利用者数の増加が期待される。
- ② 生きがいを持っていない人生を過ごすのではなく、地域貢献を通して、これからの生き方を描くことができる、老後を過ごして欲しい。その方法としてハートリンクの参加を提案する。この取り組みが、高齢者にとって生きる原動力となる効果が期待される。
- ③ 学校では学べない文化体験を通じて、豊かな人間性・価値観を育むことができる。子どもにとっては高齢者と関わることで、視野を広げて思いやりを学ぶことができる。また、高齢者も子供からしか得られないエネルギーを受け取り、今の世代にあった価値観を持つことができる。よってお互いを尊重し合いながら、世代関係なくさらなる興味・関心・意欲を持つことが期待される。
- ④ ボランティアをすることで、環境の向上や地域のために役に立ちたいという自発心を育むことができる。これらを通じて、地元に対する愛着心を強くし、地域の活性化を図る。よって、市民全体として主体的にまちづくりに参画していくことが期待される。
- ⑤ 子育て中の親の悩みを話せる場になる。幼い子

どもを持つ親は悩みが多いため、同世代や子育て経験のある高齢者と話せる機会があると心に余裕が生まれる。よって、子育てする親の日常生活の支援にもなり、多角的な視野を持って協力し合いながら子育てに取り組むことが可能となる。

4. おわりに

本提案を提案するきっかけとなったのは、幼少期の習い事が将来に影響を及ぼし、将来のキャリアに不平等が起きることを知ったことに由来する。八王子市の提言にもある『ミライを担う子どもの育成』を達成していくためにも、希望・自尊心・夢を持つ大人に、一人ひとりがなっていくことが必要である。また、習い事にはストレス負荷がかかる等のデメリットが示唆されている現代の中で、本提案は、10年後、20年後の子どもの将来を考えた提案である。

最後に、本提案を「ハートリンク」と名付けた背景には、人間同士の関わりが希薄・孤立化している全ての世代（幼児、小中高生、親、高齢者）同士が「心の繋がり」を持てるように、ただ関わるのではなく、お互いを尊重し（死を待つだけの暗い老後ではなく）「生きがい」を持つ生き方をしてほしい、また、中高生も気楽に来れるようにという意味を込めた。したがって、本提案は、全国のまちづくりの模範になるような取り組みとなることが大いに期待される。

5. 参考文献

令和2～6年度（2020～2024年度）八王子市子ども・若者育成支援計画「ビジョンすくすくくてくくはちおうじ」

子供の体験活動が発達に与える影響

<https://ippjapan.org/archives/6859>

数字で見る文化芸術活動

https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/news/news_012.html